

# 漁業経済 学会短信

No. 38  
82.11

漁場利用論議と実践課題	二平 章 ①
第二九回漁業経済学会開催さる	②
総会議事(抄録)	③
在京理事会報告	④
事務局通信	④

## 漁場利用論議と実践的課題

漁場というものを労働対象である資源生物側からながめていた私も、沿岸漁村における生産手段の高度化・漁獲強度の増大化と魚類資源の衰退化をみるにおよんで、いささか沿岸における漁場利用のあり方を考えざるをえないところへおいこまれてきました。

漁場の生産力を維持発展(漁場環境の保護と生物種の再生産力の維持)させながら、漁業生産を持続(漁民の再生産力の保持)させることの論理は理解できても、現実にはなかなかそのようには展開しえませんが、その意味で「漁場利用の経済的諸問題」のテーマに心動かされ、「展望」を求めべく大会に参加させていただきました。

毎年開かれる全国漁村青壮年活動実績発表大会などをながめてみると、近年、各地に「資源管理・漁業管理」をめざしたすぐれた漁場利用の実践事例が多くみられるようにな

### 二平 章

ってきています。しかしながら、これらの事例(発表大会以外にも多くみられる)の歴史的経過、成立条件等をふくめた「経済的諸問題」については研究者側からの十分な分析がなされていると思えません。生物研究者が数多くの研究対象生物を手にとることから研究がスタートするように、経済研究においても、豊富な事例(現象)分析の上に、その後の総合化の作業が進展するのだと思われず、共同漁業権の単有漁場において、主な貝類を中心として展開されている漁業管理や区画漁業権のもとでの養殖漁業の管理から、数量変動単位である一系統群だけをとりあげてもその生活領域が複数漁協、複数県にわたる広範囲なものになる魚類などの漁業管理へどどのように展開していくのか(させていくのか)、そしてその条件あるいは経済法則はどのようなものであるのか、これが今日的、実践的

課題となっているのではないのでしょうか。そしてこの課題は、単に狭い意味での経済学の範囲にとどまることなく、漁協論、資源論、漁貝漁法学などの総合的見地からとり組まれるべきだと思われず。

そして「資源管理・漁業管理」といっても、具体的な例としては貝類だけではないのか。もっと問題となる魚類においてはそうは簡単にはいかない。」と言う漁業関係者らの声に答えていくためにも、実践から遊離することなく具体的、現実的課題から、「法則」を明らかにし、「政策」を立案していくことで、彼らの実践の武器を作り上げていかなければならない時期にきていると痛感させられました。

経済学の内外漢で一介の「生物屋」であるので、大会での論議を充分理解するだけの能力に欠けておりましたが、今後とも種々お教えをいただくことをお願いして、私の雑感を記してみました。

## 第二九回 漁業経済学会大会

### 開催される

五月二十八日、二十九日の両日にわたって、東京水産大学において、第二九回大会が開催されました。

今大会は、第一日目に八題の一般報告がなされ、第二日目にシンポジウム「漁場利用の経済的諸問題」というスケジュールで行われました。参加者は、六〇余名に及び活発な論議がかわされました。

なお、大会プログラムは、次のとおりです。

### 一般報告

- 一、幕末期の鮎台網経営  
— 奥能登内浦において —  
伊藤康宏 (京都大学)
- 二、南方採貝業の史的展開  
片岡千賀之 (鹿児島大学)
- 三、水産高校の現状とカリキュラム問題  
田中豊治 (二一世紀問題研)
- 四、FCMA以後のアメリカの漁業問題に  
関する一考察  
— 入漁制限と自由基準 —  
松田恵明 (鹿児島大学)
- 五、最近における養殖ハマチの消費者需要  
動向について  
山本忠 (日本大学)

村上陽子 (食品需給センター)  
六、養殖漁家の「自立」と漁民層分解  
志村賢男 (広島大学)

七、中型イカ釣り漁業の生産力展開と現段階における課題  
宮沢晴彦 (北海道大学)

八、スルメイカ類の需給および流通構造と  
その特質  
中居裕 (政治経済研)

### シンポジウム

テーマ 漁場利用の経済的諸問題  
一、漁場利用の経済的諸問題  
— 分析基軸 —

高山隆三 (慶応大学)  
二、沿岸域における漁場利用の構造  
米田一二三 (水産経営技術研)

三、日本養殖業の諸問題  
浦城晋一 (三重大学)

四、漁場利用の地代論的アプローチ  
堀口健治 (東京農業大学)  
コメンテーター 倉田 亨  
長谷川 彰  
志村賢男

五、総合討論  
司会 小野征一郎  
廣吉勝治

### ◎総会議事(抄録)

一、昭和五十六年度事業報告  
活動報告、会誌発行、短信発行等

二、昭和五十六年度決算報告、同監査報告承認 (別掲1参照)

三、昭和五十七年度予算案承認 (別掲2参照)  
昭和五十七年度事業計画案の承認

四、昭和五十八年の大会は、三〇回目にあたるので記念大会とする方向で検討、開催場所は、東京およびその周辺で考える。会誌の発行、短信の発行計画等。

五、学会賞選考委員会および賞状授与  
昭和五十六年度学会賞  
。学会賞 田中豊治「水産物流通の地理学的研究」成文堂  
。奨励賞 片岡千賀之  
長谷川健二

「漁業経済学会誌および学会発表の一連の業績について」  
て」

六、学会賞選考委員会委員改選  
学会賞選考規程に従い、学会賞選考委員を選出した。(順不同)

長谷川 彰  
中井 昭  
二野瓶 徳夫  
平沢 豊

## 別掲1

## 昭和56年度決算報告

(昭和56年4月~57年3月)

## 1. 収入の部

## 2. 支出の部

科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
会 費	1,100,000	937,500	会誌印刷費	1,800,000	989,075
ボーナスカンパ	150,000	213,000	通信発送費	300,000	164,220
会誌売上	150,000	459,760	事務局費	100,000	48,235
大会関係収入	※※※	136,000	会議費	20,000	28,075
寄付金	50,000	320,000	大会経費	150,000	226,446
雑収入	50,000	43,950	負担金	80,000	42,600
前期繰越	1,580,648	1,580,648	雑費	30,000	11,200
			繰越金	600,648	2,181,007
合 計	3,080,648	3,690,858	合 計	3,080,648	3,690,858

## 3. 財産目録(1982年3月31日現在)

## 4. 特別会計

郵便貯金	1,466,566
振替口座	13,956
銀行預金	681,468
小切手	17,500
現金	1,517
合 計	2,181,007

定額貯金	500,000
------	---------

## 別掲2

## 昭和57年予算

## 1. 収入の部

## 2. 支出の部

科 目	予 算	科 目	予 算
会 費	1,100,000	会誌印刷費	1,500,000
ボーナスカンパ	100,000	通信発送費	250,000
会誌売上	150,000	事務局費	200,000
大会関係収入	120,000	会議費	30,000
寄付金	150,000	大会経費	200,000
雑収入	50,000	負担金	90,000
前期繰越	2,181,007	雑費	30,000
		繰越金	1,551,007
合 計	3,851,007	合 計	3,851,007

岡 伯明  
大島 襄二  
岩切 成郎  
七、その他

学会誌に英文のレジメを掲載したい人は受付ける。

◎在京理事会報告(十月六日)

- 一、三〇回大会のもちかたについて  
漁業経済学会の大会が、三〇回を迎えるにあたって、今後の研究の展開の礎石として、次のようなシンポジウム、特別講演、座談会を企画し、準備を進める。
- ・シンポジウム 「漁業制度改革の現代的意義——理念・成果・課題——」  
特別講演会 「漁業制度改革と私」  
座談会 「漁業経済学会の設立と今後への課題(仮題)」
- なお、座談会については、十二月頃開催し、短信に掲載する。
- 二、大会の開催地および日程  
・開催場所 東京水産大学  
・日程 五月二十七日(金)〜二十九日(日)
- 三、常任理事の役割分担の一部変更  
大海原氏の帰国、堀口氏の海外留学にともない、役割分担の一部を変更する。

総務 大海原 宏  
科研費 加瀬 和俊

◎新入会員の紹介(敬称略)

杉本 正志 的矢湾養殖研究所  
坪井 守夫 東海区水産研究所  
宮崎 隆志 北海道大学大学院  
酒井 俊二 気象庁

◎事務局通信

- 一、ポーナスカンパについて  
十二月に入りましたら、連絡しますが、例年どおり、ポーナ・カンパを行います。会員各位のご協力をお願いします。
- 二、寄贈図書文献  
学会事務局に、左記の図書・文献が寄贈されました。御礼とともに報告します。
- ・高橋 伊一郎編「輸入農水産—輸入制度と国内流通—」農林統計協会 (浦城 晋一氏寄贈)  
・中村勝男著「熊野漁民原発海戦記」技術と人間 (SOS運動本部寄贈)  
・東海区水産研究所「研究報告」一〇六号、一〇七号

・東海区水産研究所「さかな」二八号 (以上東海区水産研究所寄贈)  
・水産庁資料館「水産資料四季報」二九巻 一・二号 (水産庁資料館寄贈)

・広島修道大学フィリピン調査プロジェクト編「日本・フィリピン内海地域の比較調査報告—特に広島県とパナイ島を中心にして—」 (広島修道大学総合研究所寄贈)

・田中紀男「共同漁業権消滅補償の被補償者—補償金分配に関する二つの判例—」 鹿兒島大学水産学部紀要

(田中 紀男氏寄贈)  
・大喜多甫文「神島における社会経済構造とその変化」 島しょ・半島の歴史地理 (大喜多甫文氏寄贈)

